



明德中学校区小中一貫だより



呉市立明德中学校・明德小学校

令和6年3月15日

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、本中学校区教育推進に多大なご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、様々な活動や取組を活性化させながら、児童生徒、教職員による「小中のつながり」を生かした実践をしました。今年度の明德中学校区の取組について、報告いたします。

【今年度の研究主題】

“つながり”の中で自分を磨き、未来を創り出そうとする子どもの育成
～ 一人一人の学ぶ喜びを引き出す「個別最適な学び」を通して ～

子ども達のもつ可能性や力を最大限に引き出すために、主に次の4点に取り組んでいます。

- ① 心身の発達の段階や特性を踏まえた「個別最適な学びと協働的な学びの充実」
- ② 多様な他者と協働した探究的な学びを通した
「地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成」
- ③ 地域の災害リスクを踏まえた「防災教育の深化」
- ④ 共感的な人間関係と感情コントロールのスキルを育む「SEL(ソーシャル アンド エモーションナル ラーニング、社会性と情動の学習)の活用」

3学期の取組より

1月30日(火) 明德小中合同の研究授業(中学校1年生・社会科)を行いました。

授業は歴史分野(鎌倉時代)、「武士と民衆の生活」の単元で行いました。

鎌倉時代、武士や民衆の生活が大きく変化した要因は何か、資料から読み取り、考えたことをグループで交流しました。

「歴史とは、その時に生きていた生身の人物の決定の積み重ねである」と気づかせ、歴史を「自分ごと」としてとらえさせるために、単元を貫く問いとして「自分が鎌倉時代の〇〇ならば、どのように生活を変えていくか」を設定し、学習への意欲を引き出す授業展開でした。生徒は、教科書やiPadを用いた調べ学習や、グループでの意見交流に主体的に参加していました。授業後の研究協議では、9年間で共に伸ばしていきたい児童・生徒の姿について交流し、主体的な学びの実現に向けて、小中それぞれの取組の方向性を考えることができました。



令和5年度を振り返って

【合同行事】



明德中学校区保・小・中
合同避難訓練(11月)

【示範授業を用いた研修】



二瓶弘行教授(桃山学院教育大学)
による示範授業(小・国語, 7月)



天野秀樹主幹教諭(広島大学附属東雲
中学校)による示範授業(中・数学, 9月)

【小中合同の研究授業】



国語(小4, 6月)



国語(小1, 9月)



総合的な学習の時間(小6, 10月)



SELに関する研修(中1・2・3, 6月)



理科(中2, 11月)



どの授業も、小中の教員グループ
で熱心な研究協議を行いました。

令和5年度・6年度「小中で創る『未来の学び』実践事業」

今年度スタートした「小中で創る『未来の学び』実践事業」により、

- ・研究テーマに係り、子供の実態を明らかにすることができた。
- ・現状の把握・分析、理論研修などにより、今後の研究の方向性を明らかにすることができた。

といった成果がありました。

来年度は、「主体的に学ぶ子ども」の育成について、組織的・計画的に取組を進めていきたいと思います。秋には取組のまとめとして研究公開を行う予定です。